全国バイコロジー・シンポジウム2010

in 福岡・那珂川町大会

開催日：平成23年1月16日（日）

報 告 書

この事業は、競輪の補助金を受けて実施するものです。

http://ringring－keirin. jp

全国バイコロジー・シンポジウム2010 in 福岡・那珂川町大会　報告書

目次

1.　開会宣言
2.　主催者挨拶
3.　来賓挨拶
4.　主管団体挨拶
5.　バイコロジー活動紹介
6.　バイコロジー・シアター
7.　基調講演
8.　シンポジウム（パネルディスカッション）
9.　サイクルスポーツトークショー
10.　閉会のことば
11.　関連イベント（展示会・抽選会等）
12.　大会資料

＜全国バイコロジー・シンポジウム2010in 福岡・那珂川町大会の賑やかな受付け風景＞

1.　開会宣言

大会実行委員会　青野好克実行委員長より、この大会に来場の方々への御礼の言葉が述べられ、また関連イベントとして予定していたツアー・オブ・那珂川サイクリング大会、MTB・デ・セフリーノが悪天候により止む無く実行委員会で中止の判断をした報告があり、「全国バイコロジー・シンポジウム2010in 福岡・那珂川町大会」の開会を宣言された。

＜青野好克実行委員長の開会宣言風景＞

2.　主催者挨拶

まず、那珂川町在住で福岡県県議会議員である、渡辺英幸大会会長より、寒冷な中を参集いただいた来場の方々への御礼の言葉が述べられ、下記内容の主催者挨拶をいただいた。

（内容）

バイコロジーをすすめる会の代表幹事団体である（財）日本自転車普及協会をはじめ関係者に対して深く感謝の意を表します。

福岡県のバイコロジー運動をすすめる会の活動は県大会、県内各地の街頭での啓蒙活動、おはようサイクリングの開催などを行い、県民の自転車乗車マナーやモラルの向上に努めています。

地球温暖化が世界的な緊急課題になって来ている中、その対策の一つとして自転車は無公害・省資源性は非常に注目され、自転車活用の重要性は認められるところであり、更なる拡大の機運が高まっています。

自転車は、環境に優しく健康にもプラスになる一方、乗車マナーやモラルの低下による交通事故増加、放置自転車などの社会問題も起こっていることから、住民一人一人がマナーやモラルを守った安全・快適な自転車活用環境作りは、今後必要な課題であると考えます。

こうした中、この緑豊かな福岡・那珂川町で安全・安心な自転車の町づくりをテーマに「全国バイコロジー・シンポジウム」が開催されることは環境について考える機会となると共に、安全・安心な町づくりを行う上で大変意義があることだと思います。

本日は、基調講演やシンポジウムが行われ、また関連イベントも実施されますが、この機会に自転車のよさを認識していただき、那珂川町そして福岡県が安全かつ快適に自転車利用ができる環境になりますよう皆様のご協力、ご努力をお願いいたします。

＜渡辺英幸大会会長の主催者挨拶風景＞

続いて、バイコロジーをすすめる会代表幹事である、財団法人　日本自転車普及協会　山本耕治事業部長より下記内容の主催者挨拶をいただいた。

＜山本耕治事業部長の主催者挨拶風景＞

（内容）

今回のシンポジウム開催の主催の一員としてご挨拶させていただきます。

全国に41箇所あるバイコロジー組織の事務局を受け持っています。自転車を活用した生き生きとした豊かな自転車の社会つくり事業をしていく団体です。

自転車の活用に関しましては、これから行われるシンポジウムなどの中で、また大会会長からもお話がありました主旨のように今回確認していただきたく思います。

午前中に、関連イベントでポタリング予定でありました那珂川町の歴史ある用水路「裂田溝（さくたのうなで）」のコースを拝察してきましたが、非常に趣きのある、雰囲気のある道路が整備されており、これをサイクリングすると、さぞ気持ちが良いだろうとしみじみ感じました。この道を活用した自転車と共存できる那珂川町を構築できるのではないかと思っております。

最後に、実行委員会はじめ関係者の皆さんによるこのような盛大な会を開催していただいたことに感謝を申し上げ、有意義なバイコロジー・シンポジウムとなるよう祈念致し、挨拶に代えさせていただきます。

3.　来賓挨拶

那珂川町　武末茂喜町長から、那珂川町にての大会開催のお礼の言葉があり、下記内容にて挨拶をいただいた。

＜那珂川町　武末茂喜町長の来賓挨拶風景＞

（内容）武末町長

人口５万人を越えた那珂川町は、新生児の出生率も高く、また若い世代の住民比率も非常に高いのが、那珂川町の特長であります。

自然豊かな町であることも手伝い、自転車の活用もこうしたところから日常生活の中でもかなりあるのではないかと思います。

また、健康ブームの追い風にのって自転車の需要と利用がかなり多くなってきています。

こうしたことから町としては、「自転車駐輪場の整備事業」、歩道への乗り入れが出来る「自転車通行可標識設置事業」などを行っておりますが、このようなハードの面の住民からの行政に対する強い要望があることから、今後優先して行くことも必要と思っています。

そして、サイクルスポーツ・自転車競技スポーツに関しましては、那珂川町においても小さなブームが起きつつあると認識しており、これに関して関係者の意見などを聞きながら側面から支援できるものはして行きたいと考えております。

本日は、寒い季節でありますが、この那珂川町でこのような大会を開催していただける事は非常に嬉しく思っております。 このシンポジウムをこれから拝聴させていただき、参考にしたいと思います。

今後ともよろしくお願いします。

（内容）加納町議会議長

大会開催にあたりまして一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。バイコロジーは自転車とエコロジーを結び付けた造語ですが、自転車は いつでも、どこでも、誰もが利用でき、電力を使わず、ストレス解消に大いに役立ち、また環境や人に優しい一番手軽な移動手段であります。

こうした一番身近にある自転車の利用を広げるため、全国でバイコロジーをすすめる会が長年活動されておられることは意義深く誠に敬意を表する次第です。

しかしながら、自転車活用のルール・マナーの低下・欠如により放置自転車や無灯火・無謀運転による自転車事故が社会問題となっていますが、全国のバイコロジーをすすめる会がこのような諸問題を解消すべく啓発活動にあたられ、確実に成果を挙げているものと確信いたします。

那珂川町に置きましては、総合型地域スポーツクラブであるスポーツBRANDEX（ブランデックス）が中心

となり啓発活動や自転車の安全指導などを実施しています。

今後とも、この運動が大いに広がっていくことを期待申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

＜那珂川町　町議会　加納義紀議長の来賓挨拶風景＞

4. 主管団体挨拶

福岡県バイコロジーをすすめる会　岩井一之副理事長より挨拶をいただいた。

（内容）

本日は寒い中、またご多忙のところお集まりいただき誠にありがとうございます。

「健康的な自転車の町づくり」をテーマとした基調講演、また「自転車が活きる町」のシンポジウムのメインテーマによるパネリストの方々の熱心なパネルディスカッションが行われることにより、快適な自転車活用を目指すバイコロジー運動が那珂川町から発進され、福岡県はもとより九州全体に広がり「安全で安心な自転車による街づくり」を目指した活動が定着されることが期待されております。

今回のバイコロジー・シンポジウムにご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。

＜福岡県バイコロジーをすすめる会　岩井一之副理事長の挨拶風景＞

5. バイコロジー活動紹介

福岡県バイコロジーをすすめる会　後藤章夫事務局長より活動紹介をいただいた。

（内容）

自転車はCO2を出さない、無公害な地球温暖化防止に役立つ良い乗り物として手軽な移動手段であり、レジャーなどでも活用されているが、その一方自転車社会の体制、行政の自転車道・駐輪場整備の立ち

遅れなどもあり、自転車を利用する側の違法駐輪・交通違反・マナーの悪さやモラルの低下から、自転車が起因する事故が問題であります。

だれでも快適で安全に自転車を利用できる環境づくりやマナーアップのための活動を行っています。

具体的には、春秋の交通安全週間での啓発活動、 5月の自転車月間に都市部にてチラシ・グッズ手渡しで啓蒙に務めている。また、県内のサイクリング大会開催時にグッズなどを配布しての啓蒙。

そして、自転車のプロショップへも随時配布して活動をしています。

まだまだエリアが狭いところでありますが、こうした意味からも、今回のバイコロジー・シンポジウムでは「自転車市民権宣言」の署名活動を実施していますので、自転車を快適に乗ることが出来る為の市民権運動ですので、ぜひご署名をお願いします。皆さんのご理解ご協力をお願いしたいと思います。

＜福岡県バイコロジーをすすめる会　後藤章夫事務局長の活動紹介風景＞

6. バイコロジー・シアター

「バイコロジーがやってきた」～バイコロジーってなんだろう～

「バイコロジー」の言葉が初めての来場者に分かりやすく紹介する為に、この大会の運営委員会が考えた紹介寸劇を実施した。那珂川町の劇団ミリカ e-studio の皆さんと、役者に扮した運営委員が自転車の服装・装備、自転車の正しい乗り方へなどのアドバイス劇を実施し、またスポーツBRANDEX福岡に所属する小学生による一輪車クラブ「スマイルキッズ」が、那珂川町のお祭りソング「なかがわサンバ」のリズムに合わせてパフォーマンスを寸劇の前後に披露し、会場に彩を添えた。

＜バイコロジー紹介寸劇の ひとこま＞

7. 基調講演

講師　髙山　順　（たかやま　すなお）

(財)日本体育協会公認　上級自転車競技指導者、(元)東京オリンピック組織委員会自転車競技役員、(元)福岡県教員養成所　教員、現在　福岡県自転車競技連盟会長

（内容）

バイコロジー運動は地球温暖化防止策と非常に密接な関係がある運動です。

車に乗ることを極力控えて、環境に優しい自転車の活用をして本来の人間の生活方法を取り戻そうと言う1971年アメリカで起こった市民運動であります。日本へは翌年に取り入れられました。

最近では、地球温暖化防止策、COPなど世界的に盛んにマスコミで取り上げられています。

＜福岡県自転車競技連盟会長でもある　髙山順講師の基調講演風景＞

それでは、私が自転車に関連した事例を諸先輩方の話も含めて述べさせていただきます。

① 昭和22年（1946年）に九州一周自転車レースが西日本新聞主催で行われた。
正式な大会名称は「第一回全九州一周各縣對抗自轉車競走」　（次ページ資料参照）
自転車機材の故障多かったことや道路環境が悪く、残念ながら一回のみで終わってしまった。
現在続いている九州一周駅伝はその後昭和27年から開催されている。

② 第3回国民体育大会が昭和23年（1947年）に福岡県で開催された。
2廻り目は平成2年（1990年）第45回国民体育大会が福岡県の博多の森を中心に開催された。

③ 壱岐島における島興し事業で、サイクルロードレースの開催
昭和62～63年に渡って機運が高まり、また島の4町の住民の熱意は高く、審判講習会等を開き、準備が整ったところで、平成元年（236人参加）第1回を開催した。離島振興法による事業である。
島のおもてなしは厚く島興しに繋がったと思われ、現在に至っている。

④ 福岡県の自転車普及への新しい動き
自転車レースを含めて、種々のサイクルイベントが福岡県では開催されているが、昨年11月に複合型のサイクルスポーツイベント（一般車でも参加できる）も行われるようになった。

こうした中での注意点は、交通ルールをしっかり守って自転車に乗ることが第1条件であり、これによって通勤・通学利用にも大変便利であり、有酸素運動もできる自転車ライフの正しい構築が出来ると思います。車に頼らず出来る限り移動は自転車や徒歩でお願いしたい。また、バイコロジー運動は財政を圧迫している高齢化社会の高額医療費の増加も抑えることが出来る取り組みであると思います。

さて、那珂川町においては この「安全・安心な健康的な自転車の町づくり」の構築に非常に適した環境・条件が揃っていると思います。

私も那珂川町には何度もお世話しに参りましたが、第一に2010年に那珂川町には総合型地域スポーツクラブの「スポーツBRANDEX福岡」が結成されましたね。

これは、未就学児から高齢者まで3世代に渡る多世代でのスポーツ運営が行われています。

活動内容はサイクルスポーツ、一輪車、陸上競技を実施しており、また指導者の養成やスポーツを通した町民の健康増進や競技志向者向けの大会などが行われています。

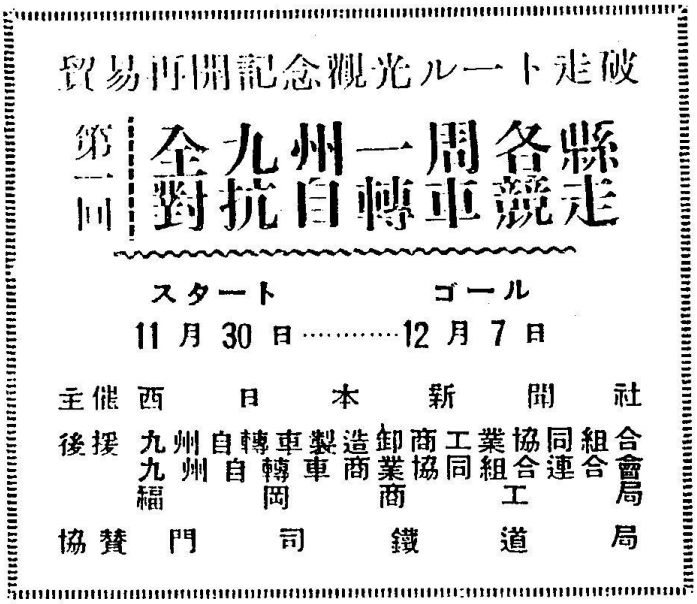
こういうようなクラブが既に出来上がっていますから進めやすいと思います。

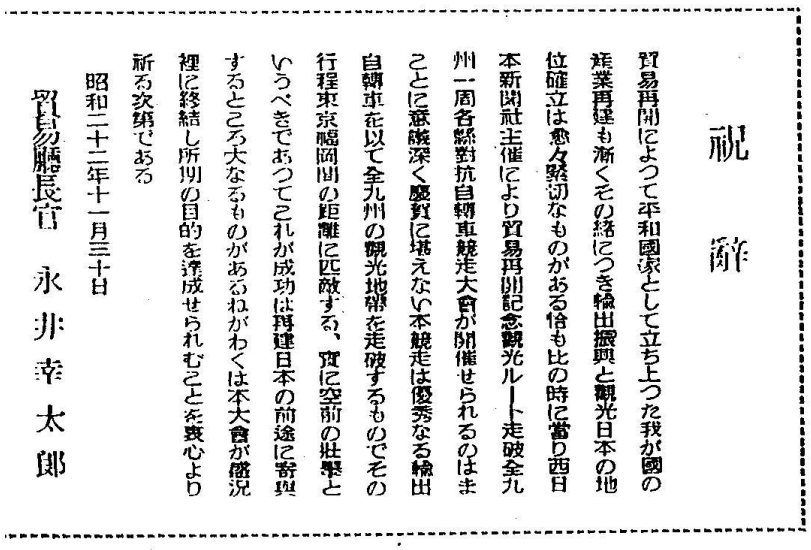
また、大切な緑や水の資源が豊富であり自然と共存できる那珂川町には近隣都市にはこれほどの緑のある町はないというロケーション持っていますし、スポーツをする環境にあると思います。

一輪車に関しましては、過去には文科省の教育の一環で小学校に指導の先生もおられ、盛んに活動されていましたが、今は小学校の倉庫に眠っているのが大半と思います。

こうしたことの掘り起こしも大切だと思います。

最後に那珂川町はサイクルスポーツなどのスポーツ活動に適した素地を持っていることを重ねて申し上げ、基調講演を終わりたいと思います。ご静聴ありがとうございました。





祝辭

貿易再開によつて平和國家として立ち上つた我が國の産業再建も漸くその緒につき輸出振興と觀光日本の地位確立は愈々緊切なものがある恰も此の時に當り西日本新聞社主催により貿易再開記念觀光ルート走破全九州一周各縣對抗自轉車競走大會が開催せられるのはまことに意義深く慶賀に堪えない本競走は優秀なる輸出自轉車を以て全九州の觀光地帶を走破するものでその行程東京福岡間の距離に匹敵する、實に空前の壯擧といつべきであつてこれが成功は再建日本の前途に寄與するところ大なるものがあるねがわくは本大會が盛況裡に終結し所期の目的を達成せられむことを衷心より祈る次第である

昭和二十二年十一月三十日

貿易廳長官　永井幸太郎

8. シンポジウム（パネルディスカッション）

テーマ：自転車が活きる町

パネラー

山口　幸生	福岡大学　スポーツ科学部　教授
栗村　修	宇都宮ブリッツェンプロチーム監督
大石　博之	地元のサイクリスト、建設コンサルタント
藤本　広一	サイクリスト、福岡市役所企画課長
髙山　順	福岡県自転車競技連盟会長

コーディネーター

十時　裕	福岡市NPO・ボランティア交流センター　センター長

十時　これからパネラーの皆さんに色々な角度からお話をお聞きしますが、私は那珂川町の町づくりに関わっていることもあり、今日は第三者的な立場から、町の特性を活かした自転車による町づくり・・・バイコロジーを自転車に関して、それぞれのお考えのパネラーの皆さんと共に、このシンポジウムでお伝えできればと思います。

この自転車と町づくり・町おこしは繋がらないように思えますが、福岡市においては町づくりと自転車は関係が深く、重要視されています。バイコロジーを健康・文化・環境・レクリエーションなど多方面から捉え、考えていくことも町の活性化に繋がるのではと思っています。

まずは自己紹介も兼ねて、自転車との関わりをお話いただければと思います。

山口　私は大学で健康づくりに関する研究をずっとしていますが、身体を動かすことの必要性の中での自転車は大きな意味を持っており、「自転車」をキーワードに研究を進めています。

十時　先生には後ほど「自転車が活きる町」をテーマに少し詳しくお話を願えればと思います。

さて、栗村さんはアウェイの関東から来られていますが、宇都宮ブリッツェンプロチーム監督？プロのロードレースチーム？ですか？

栗村　はい、私は宇都宮ブリッツェンという自転車ロードレースチームの監督を務めています。宇都宮ブリッツェンは行政が後押しして運営されている地域密着型のチームです。ロードレースというとピンと来ないと思いますが、後ほどお伝えしたいと思います。今回のコンセプトとしては「地域型」をキーワードに、地域住民・行政も含めて自転車を活用して盛り上げて行く町づくりを、宇都宮のロードレースの実例を基に紹介したいと思います。

十時　そういった意味からは、那珂川町においてもこの実例を参考にされると良いですね。

地元サイクリストの大石さんは藤本さんと同じく、自転車の応援団的な立場で来られていますが・・・、

大石　私は地元の自転車好きの一人です。自転車はロードレーサーと私の好きな競輪場を走るトラックレーサーを展示コーナーに飾っておりますが、今日はそんな自転車の楽しみ方等についてお話が出来ればと思っています。

十時　因みにどれくらい自転車を使っておられますか？通勤とか？

大石　そうですね通勤にも使います。那珂川町から福岡市の都市圏はそんなに遠くないですね。せいぜい10kmくらいですから。距離的にはちょっと近いかもしれませんが自転車の利便性は充分あります。

十時　続いて藤本さん　自転車乗りの格好でお越しですが、自転車チームにも所属しているとのことですので、どれくらい乗っておられるかと、自転車との関わりについてお話いただけますか？

藤本　私は那珂川町のスポーツBRANDEX福岡のチームに所属しています。 2・3年ほど前から乗り始め徐々に距離を延ばしておりまして、昨年は年間1万キロ走りました。

仕事として福岡市の職員をしていますので、福岡市の町づくり、当然自転車、都市のあり方などの問題を今回の那珂川町も含めた福岡全体の福岡都市圏として自転車のお話が出来るといいなと思います。

十時　ありがとうございました。髙山さんは基調後援をいただきましたので、補足がありましたらよろしくお願いします。

さて、山口先生と栗村さんに話題提供の形で説明していただきたいと思います。

山口　それではスクリーンを使いながら説明させていただきます。

テーマは「自転車と共に生きる」です。ここでちょっと質問に答えていただきます。

内容は、お手元の赤と青の画用紙をかざして答えていただく方法を取らせていただきます。

①週3回以上、1回あたり20分以上自転車に乗りますか？　　はい赤　　いいえ青

結果は、半々くらいでしょうか。

②あなたは、今日ここまで自転車で来ましたか？　　はい赤　いいえ青

結果は、この寒冷の中でも来られたマニアックな方が4～5名いらっしゃいますね。

③あなたの住む街は自転車に優しい街ですか？　　はい赤　いいえ青

結果は、半数が自転車に優しい街と答えました。かなり那珂川町はいい環境のようです。

● オランダのユトレヒトの街の朝の様子を映像で紹介

自転車通勤が多く、有数の自転車利用国が紹介されました。

● 日本の自動車利用における6km未満トリップ長の割合

6km＝自転車で充分移動できる距離　　国土交通省（2002）

エリア	6km未満トリップ長割合（自動車利用率）
三大都市圏	50．2%
地方中核都市50万人以上	59．0%
地方中心都市	60．8%

車から自転車に転換できる可能性があることを示している。

● ヨーロッパ、北米各国および福岡市における自転車と歩行の交通分担率

福岡市	**歩行　19%**	**自転車13%**
オランダ	18%	28%
デンマーク	21%	20%
スェーデン	29%	10%
オーストリア	28%	9%
ドイツ	22%	12%
スイス	24%	10%
イタリア	24%	4%
フランス	24%	4%
イギリス	12%	4%
カナダ	10%	2%
アメリカ	6%	1%

（福岡市データ2005年、他国のデータ1995年）

北米は比率が低いが、ヨーロッパでは50%近くが街中の移動を歩行・自転車でしている国がある。

● 自転車事故死者数

	1980	2002	2002／1980比率
日本	**1，366**	**1，305**	**0．96**
アメリカ	965	665	0．69
ドイツ	1，338	583	0．44
フランス	709	223	0．31
イギリス	316	133	0．42
オランダ	425	169	0．40

日本はほぼ変わらないが、他国は半減している。

これは、日本特有の交通環境に何か大きな問題があることを示している。

● 海外の自転車道路の紹介

オランダ　アムステルダム・・・街の中心部の道路にも、自転車専用道が設けてある。

カナダ　モントリオール・・・日本にも似た場所はあるが、自転車道の幅が広くとってあるのが特長。

● どれだけ交通転換の可能性があるのか？

現在の自動車利用の45%は荷物運搬のためや、健康問題などで自転車・徒歩に転換は不能。

残りの55%は転換可能である試算。

34%は公共交通に	26%は自転車に	15%は徒歩に

（Brog＆Erl, 2006）

● 海外事例よりも、私たちの住んでいる自転車環境を整えるべきだ。

では、福岡・那珂川町はどうしたらいいの？これを考えることが非常に重要です。

行政には期待できないし・・・那珂川町は違うと思いますが・・・。

●方法は色々あるけど・・・まずは、楽しめる自転車のイベントをやって見ました。

昨年、**ツール・ド・フクオカ　2010を開催**しました。私は副実行委員長という立場で運営に関わりました。サイクリングでゴールされた方々の素敵な笑顔を見ますと来年もやりたいという意欲が湧いてきました。また、プロの走りの素晴らしさも栗村さんの実況中継で盛り上がりました。

那珂川町の方も多勢お手伝いいただき、大変ありがたく思っています。

事前のマスコミへのプレスリリースや取材などで効果を挙げ、TV／ラジオ・新聞、雑誌などに取り上げていただきました。

★　このイベントに関わった人数：約300名

福岡青年会議所、福岡大学（山口研究室、学生）、他大学ボランティア、自転車愛好家、VC福岡、Cross FM

健康づくりのシティライド（ツアーリーダーを配置した）と自転車競技の2本立てで動いた。

★　このイベントが目指したものは？

1）福岡に相応しい楽しみを演出すること・・・自転車をキーワードに楽しいお祭りをやろう！

2）アジアとの交流（スポーツ観光）

3）自転車の利用促進（エコ・健康・都市交通）

4）ネットワークづくり・・・一度イベントを行うと関わった方々との連携ができる。

（多分今回お招きいただいたのもこの効果だと思っていますが・・・）

↓

長期的には・・・私たちの生活が、価値がある。と思える街にすること

● 韓国ソウル市では政治主導型であるが、2012年までに、207kmの自転車道、地下鉄の駅にはロッカーやシャワー室が出来る。

福岡市には20kmちょっとしか自転車道ない。

韓国は日本とは違うが、日本は住民主導でやらないと、しかも大きな集まりでやらないと、お任せ主義だと実現しないのではないかと思います。

● ちょっとむつかしいことですが・・・、

地域全体介入を進めるためのプロセス（九州経済産業局、医商連携モデルより）

ステップ1．合意形成段階	①会合の場②組織の状況把握③地域・環境の状況把握④関連団体との接触⑤コンセプトの練り直し⑥相談窓口の設定⑦連携相手の模索⑧合意形成
ステップ2．ネットワーク構築段階	①合意形成②取り組みの実施（イベントなど）③他の連携の可能性④ネットワーク組織形成
ステップ3．エリアマネジメント段階	①ネットワーク組織②まちづくり協議会③町づくり会社④エリアマネジメント体制

ここでちょっとまた質問に答えていただきます。

抽象論を言っていても進まないので、これからの質問を住民がどう考えるかが重要でここがポイントとなります、

先ほどと同じく、お手元の赤と青の画用紙をかざして答えていただく方法を取らせていただきます。

④新しく道路を作る場合、歩道を拡幅して歩道上に自転車通行帯を作るのがよいか、車道に色塗りした自転車レーンを作るべきか？　　歩道と思う方は　赤、　車道は　青

結果は青が少し多いようですね。いろんな立場で違う答えとなります。

ロードレーサーを持っている方は青を上げ、小さなお子さんをお持ちの方は多分赤を上げたのではないかと思います。ママちゃりで移動の方ですね。

● 条件が変われば？

車道が狭くバスの便数が多かったら？	歩行者が多かったら？
車道の片側にしか、自転車が通行できる空間がなかったら？	路側帯に違法駐車が多かったら？

こうしたことは、自転車が好きな方々がどんどん発言していくことも必要だと思います。

● 今後の方向性

1	魅力的な自転車イベントの継続的開催
2	小学校区単位の新しい子ども自転車教室
3	学校、職場、個人、健康づくりにおけるモビリティマネジメントの促進
4	ソーシャルマーケティングのセンスを持った街づくり組織の設立・運営

このようなことの実現に向かって私も動き始めていますが、住民が率先して動きかつ運営していく組織作りをして行きたいと思っています。以上で私の説明を終わります。

十時　どうもありがとうございました。私も町づくりに携わっていますが、正にその通りと思います。好きな人間、関心のある人間が気づき動かし人を動かして、町づくりが推進されると思います。

先生ひとつだけ質問なのですが、外国の自転車死亡事故率が下がり、日本は変わらないとのことですが、先ほどのお話で車道通行・歩行者通行が関係しているのでしょうか？お聞かせ下さい。

山口　はい関係しています。自転車は車道を走るのが安全であると言う明確なデータがあります。歩道を自転車で通っていい所があるのは実は日本だけで、歩道から交叉点に飛び出してくる自転車は車からは見えません。車から見えない歩道は大変危険だということです。

十時　わかりました。このままだと事故率は変わらないか、まだ増えるということでしょうか？マナーの問題やその他の指導では？

山口　教育で少しは何とかなるかと思いますが、物理的な環境を根本的に変えていかないと解消できないと思います。

十時　那珂川町でのこうした条件から言いますと如何でしょうか？

山口　私は那珂川町のことをあまり詳しく知りませんが、福岡から住んでいる者とすれば人口密度も関係しますが環境はめぐまれていると思います。これは在住の方に後でお話いただければと思います。

十時　ありがとうございました。続きまして宇都宮市で自転車を地域にネットワーク作りをし、根付かせ楽しみながら自転車文化を育てているということで、その事例を栗村さんにお願いししたいと思います。よろしくお願いします。

栗村　はい、私共は自転車のプロロードレースチームということで地域に根付いてやっていますが、マイナースポーツということもあり、レースをしているだけでは行政や地元のスポンサーからなかなか理解が得られないので、様々な取り組みをしています。

スクリーンを使って活動の様々な取り組みが紹介されました。

＜　プロロードレーシングチーム「宇都宮ブリッツェン」の様々な取り組み事例　＞

1	1990年にアジアで初めての自転車の世界選手権が行われた。 このことがきっかけでジャパンカップが行われるようになった。 2010年はロードレースに7万人、街中クリテリウムレースに3万人の2日間で合計10万人を集めた。	サポーターの熱い応援がある。市長がサイクルシティ宣言、栃木県知事もプロスポーツに興味をもたれている。ファンや支援者との交流会を定期的に行っている。
2	保育園・幼稚園・小学校などで自転車の安全教室・マナー教室を行い地域に根付いている。 2年間で4，000名ほど教えた。	警察署から表彰をいただいた。 一般社会に認められるボランティアをしている。
3	サイクルピクニックやサイクリングを開催して、選手が小さいお子さんと走って交流を深めて、技術を教え、将来の有望選手を育てている。地元選手が観光案内も兼ねてサイクリングを実施している。	チームは株式会社ですが、こちらはNPO法人を別途立ち上げてやっている。
4	地元の中学生に難しい3本ローラー台の乗り方教室と共に、選手が中学生にこれからの生き方などを講演する様な設定としている。	人生哲学後援を兼ねたスポーツ指導
5	ブリッツェン自動販売機で飲み物を買うと売り上げの一部がチームに帰ってくるシステムも活用している。	市内に100台くらい設置している。

選手は大変ですが、このようなことをしながら、レース活動をしています。地元のレースはジャパンカップだけですので、県外に遠征をしています。地域に密着した活動では住民の支持を得ています。

十時　ありがとうございました。チームの形態はどうでしょうか？

栗村　日本の選手は、今までは企業スポーツの中での実業団チームが多かったのですが、最近では私共の宇都宮ブリッツェンのようなチームが加入してきています。しかし、街のチームですからスタッフも選手も理解と努力が必要となります。

十時　さて、福岡にもこうしたチームが根付いていくことの必要性などあれば、お話していただければと思いますが、地元ライダーの大石さんと藤本さんに 事例も含めてお話を聞こうと思いますが、大石さん如何でしょうか？

大石　まず、山口先生のお話の中で車から自転車への転換の距離が6kmとされていましたが、6kmと言うと、だいたい那珂川町から福岡市の大橋辺りまでとなりますね。

今日は町長もお見えですが、自転車の利用促進を考えた時に、一般の人が大橋辺りまで自転車で生活上移動する範囲としての整備がこれまで出来ているのかなあ？と、そんな気がします。

当然、福岡市との境界もございますので行政上の問題もあると思いますが、那珂川町だけの問題ではなく大きな視点で福岡都市圏として見詰め直す必要があると思います。

一方、在住のサイクリストとして那珂川町を見て歩きますと、田舎ではありますが、今光近辺や松木辺りの

路側帯が広くとられていたり、歩道上に自転車レーンが設置されているところがあるのは、行政の努力が示されています。ただ、その自転車レーンを交錯して走る自転車がある事は山口先生のお話にあったモラルの問題が発生していると思います。
それと、栗村さんの活動紹介は興味深く、私が自転車好きだから、那珂川町が宇都宮のような盛り上がりが出来るといいなあと思いました。お話の中で印象深かったのは、ファンが文句を言っている事に対して栗村さんが、まじめに答えている姿がありました。私の場合はロードより競輪の方が好きなのですが、
本当は競輪選手こそがプロのサイクリストと思うのです。プロの自転車競技選手ですね。選手をやっている若い人の多くは生活の為に競輪選手になっている。プロ選手はファンからの車券購入で走り、生活が成り立つので、彼らは競争に対する姿勢が非常に真摯です。勝てば賞賛をもらえるが、負ければ罵声を浴びます。髙山先生もおられますが、私も自転車競技大会などで競輪場に行くことがあり、時々競輪選手とお会いする機会がありますが、彼らははとても礼儀正しいですし、競技に対する責任感が強いです。
失礼ながら私の目にはロードに関しては、実業団の選手にこのような印象を受けておりませんでした。全ての選手ではないと思いますが、今回宇都宮ブリッツェンのような姿を見せていただくと、日本のロードレースの世界が、本当のプロの域に達してきているような気がしました。
そして、宇都宮ブリッツェンには多くのファンがおり、またファンに対してきちんと答える担当がいるということは素晴らしいですし、新鮮な感動をもらいました。素晴らしいと思います。
十時　ありがとうございます。競輪のことについては、まだまだ続きそうですね。(笑)
大石　はい、この話をするとちょっと長くなりますから・・・・。(一同笑)
十時　6kmと敢えて言われましたが、これは那珂川町が自転車の町づくりが出来そうだと言われたかったのかなと思うのと、もう一点はロードレースの新しい視点が感じられたのですが、大石さんは「自転車」という観点で走りながら「町」を見ています。
那珂川町の「ブランドづくり」「町づくり」として「自転車」も重要なポイントと思うのですが、実際に那珂川町の場合こうした新しい「風」という点で可能性はどうでしょうか？
大石　そうですね。福岡市の方がある程度成熟してしまっていて、社会資本の整備で外国の先進事例でもう一回街を作り直すのは難しいですね。そういった面からすると那珂川町はこれから新たに着手する部分で外国の先進事例を積極的に取り入れていける余地がまだまだあると思いますし、今回のこのような取り組みで住民の意識があがりますので、可能性はあるのではと思います。
十時　じゃ、大石さんは那珂川町住民として人肌脱いでもいいと・・・？(笑)
・・・(一同笑)
さて藤本さん、今回は福岡市職員の肩書きが入ってしまっているので、もう逃げられないと思いますが、自転車で年間一万キロを走っておられるとのことですが、都市として那珂川町を考える時、自転車への対応をお話し願いたいと思います。
福岡市で今起こっている自転車交通のいろんな課題もあろうかと思いますが、その辺りも含めてよろしくお願いします。
藤本　はい、福岡市が自転車に対して優しいかどうかということに関しては、種々問題が指摘されていまして、福岡市自体は平地が多くコンパクトな街ですが、自転車に乗っている人の数は多いのですが、道路が狭いので道路容量が足りていない中で基本的には「自動車と人間を分けます」と言う道路作りがこれまで行われてきました。自転車をどこに入れるかは確立されていません。
ところどころに自転車道を作っていますが、まったく足りていないのが現状です。
歩道に作ると事故が減らないのではということと、予算が限られていることもあり簡単に解決されるものではないと思っております。

山口先生のお話の中に**「私たちの生活が、価値がある。と思える街にすること」**というのがありましたが、これは正に行政も実現しないとならない究極の目的であると思います。
これが、色々な状況の中で言われていることです。
それぞれの人が、それぞれの趣向・趣味がある中で、私共行政が価値のある仕組みを**「どう作っていくのか」**が行政に求められていると思います。

自転車で走る時は郊外が多いのですが、福岡都市圏（那珂川町を含めて大野城市、太宰府市など）を生活の舞台として捉え、自転車で楽しく遊んで、生活の価値を上げられる街になれば都市圏の財産になります。 このようなことが実現したらいいなあと思いながら走っています。

十時　一つ質問ですが、サイクリストが糸島は多いですね。また県内を藤本さんは走られていると思いますが、那珂川町は走りやすいですか？

藤本　走りやすいと思います。

十時　走りながら風景も楽しんでおられるかと思いますが、風景とかそういった面ではどうでしょうか？

藤本　そうですね我々ブランデックスでは中山間部にある中ノ島公園に集まって山岳方面や、県境を越えて吉野ヶ里の方まで行くこともありますが、山の風景がとてもいいですし、また自然を感じることが出来、設備の整った中ノ島公園に集まれるということも大変有り難いです。地元のものも食べられるのもいいですね。

十時　ありがとうございました。町づくりの点でお聞きしたいのですが栗村さん、事前打ち合わせでお話しされていましたが利便性の高い街は自転車でと言われていましたね？

栗村　はい、私がお話しようとしていた内容は、交通手段としての自転車ではなく、スポーツとしての自転車なのですが、利便性が高い街は車も多くスポーツとしての自転車は走りにくいのですが、那珂川町に来て感じたのは、丁度自然が広がっている地域と町並みの地域があって、スポーツとしてやってきた私はお世辞抜きですごく羨ましいですね。ヨーロッパのように町を抜けると自然が広がっていて非常に走りやすいんですけど、東京なんかはどこまで走っても街から抜け出せず非常にストレスを感じます。それに比べ那珂川町というシチュエーションは生活でも良いと思いますし、また走り出したらいきなり走りやすいところに出れる。山を越えれば佐賀の方にもいけるし、平地もあるという点で自転車乗りにとってはくすぐられる部分が多い素晴らしいところだと思います。スポーツと交通生活での利便性を兼ね備えた街ではないでしょうか？

十時　ありがとうございました。山口先生は自転車に乗られるのでしょうか？

山口　はい、私はクロスバイクで片道7kmを通勤で使っています。

十時　那珂川町の町づくりの点で、スポーツとしての自転車、生活充足のための自転車はマーケッティング

の部分でかみ合っていくのかどうかお話いただけますか？

山口　世界中のいろんな成功している取り組みのベースになるのは、政治だったり、国だったり、お金儲けのための民間企業ではなく、そこに住んでいる地元の方が、本当に好きでやっている。そう言う土壌がないと、何をやろうとしてもやっぱり発展しない。継続していかない。

ですから、那珂川町の中でまずはどんなものでもいいから、自転車に関わった活動というものがいる。

レースでもいいし、マナー教室でもいいのですが、ともかく「自転車が好き」という方が増えることで最終的には「じゃあこの町でチームを作ろう！」とか、そういうことに絶対に繋がると思いますね。

これは数年で出来る話しではないと思います。じっくり時間を掛けて住んでいる方が縦ではなく、フラットな形で話し合い、好きな方が集って、経済基盤を導入しながらやっていかないと上手くいかないと思います。

十時　この那珂川町に環境が整っているとするならば、自転車を機軸にして町づくりをスタートする。いろんなイベントをする。これについては可能性があるのではないかというお話ですが、髙山さんアスリートへの協力体制の面のお話しもありましたが、今回お話しをした中での感想も含めて如何でしょうか？

髙山　那珂川町に対して具体的なお話がありましたが、自然に恵まれた町なので住民との共存に努力していかなければなりませんね。「アクションを起こす」必要があると思います。ただ考えているだけでは駄目ですね。楽しみながらアクションを起こすと喜びに繋がると思います。協会としての協力体制・サポートは充分にあります。

十時　それでは皆さん最後に各立場からお話いただきたいと思いますが、地元の大石さんお願いします。

大石　自転車の利用のシーンが今日のお話の中でそれぞれ違いますので、自転車のキーワードであっても求められる価値は多様なことがあると思います。合意形成を含めて多面的なことに対応できるように取り組みたいと思います。

自転車乗りとして、周りの人に伝えていければと思います。

十時　それでは藤本さんお願いします。

藤本　今回、那珂川町にスポーツBRANDEX福岡が立ち上がってこのような会が催され動き始めているわけですが、自転車やジャージを持ち寄って今回展示させていただきましたが、福岡都市圏で働いて那珂川町で自転車で遊んで帰るような人たち、一回でもいいから走って帰る人をもっと増やしたいですね。

十時　栗村さん、こうしたことへのエールなどありましたらお願いします。

栗村　走る環境としては最高ですし、またスポーツ・移動手段とを併せ持った地域なので、国内ではそれほど多くありませんので、是非自転車を使った地域活性化を先行投資的にやっていただきたいなあと思います。こうした部分では宇都宮ブリッツェンもこれまで培ったノウハウを持ってチームとしても、個人的にもお手伝いしたいと思います。

十時　ありがとうございます。それでは山口先生短い時間だったと思いますが、時間を掛ければ少しずつ広がっていき合意形成が生まれると言うお話だったと思いますが、先生の思いも含めてお願いします。

山口　大きなことをやって行こうとすればするほど、それぞれの価値観がぶつかるんですね。そうなった時に例えば、福岡市と那珂川町と独立性は大事なのですが、それぞれのプライドがぶつかってうまく行かない時があるかと思います。あるいはいろんな団体のプライドだったりがぶつかる。

広く大きな力を作っていくためには、やっぱり「閉じない」ということがすごく大事だと思います。

「開かれている」と言う多様な価値観があって、「それは自分たちと違うから、自分たちだけでやる」と言う発想をしてしまうと、絶対に失敗するとおもいます。ですから「常に開かれている」と言う事、別の価値観を持っている人を尊重する。そういった基本的なスタンスを持って行けば、おそらく、かなり大きなことがどんな雰囲気の時も出来ると思います。

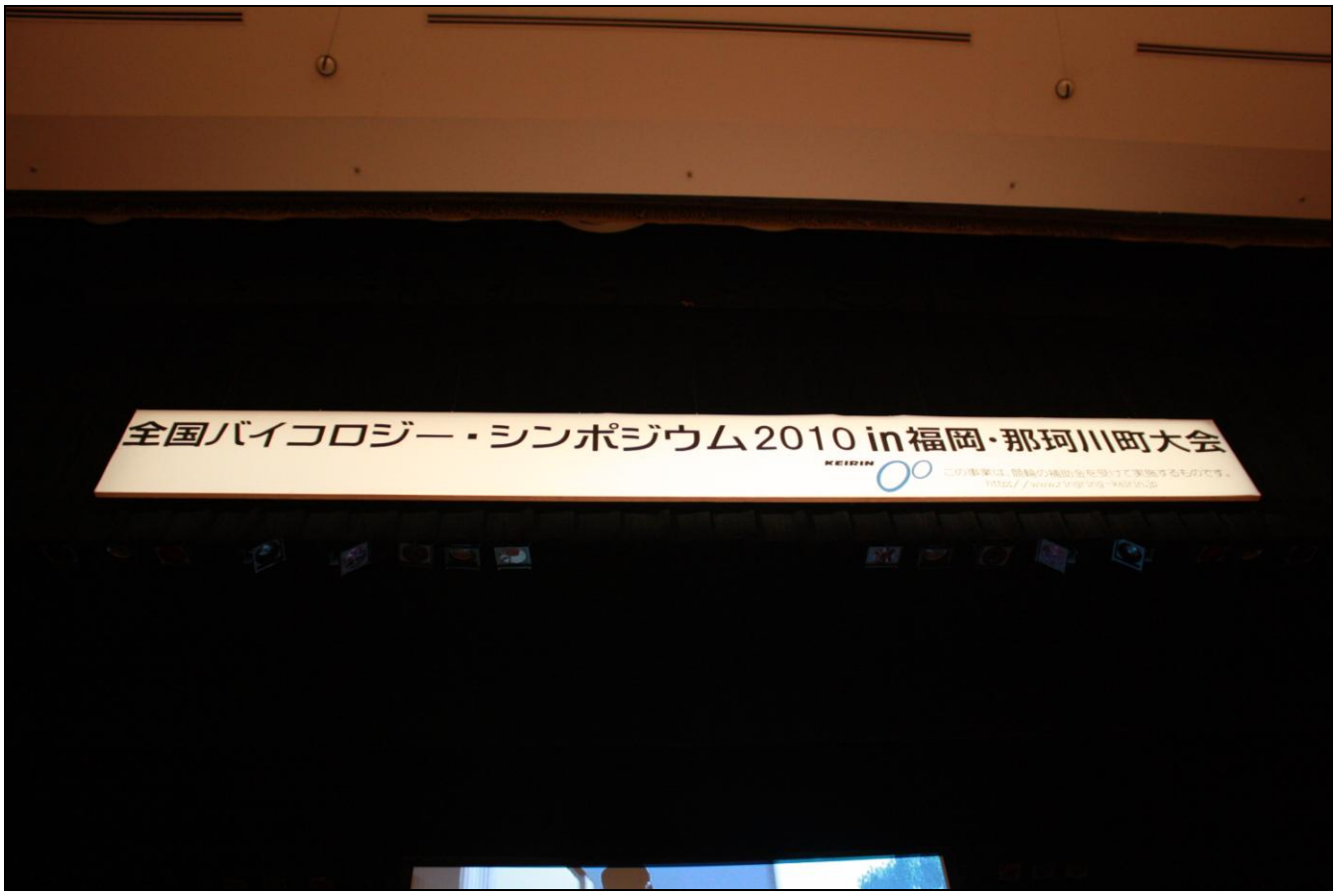
十時　ありがとうございました。団体や関心のある方々が賛同者・協力者を増していこうと言うときは、情報提供をどんどんやり、こう言う場を協会から頂きましたが、これを有効活用して、関心を持っている人、好きだという人々から町づくりは始まりますので、この機会は非常に重要で、かつ今後も続けていくことが必要と思います。今日お見えのパネラーの皆さんどうもありがとうございました。

そして、那珂川町長　最後までお聞きいただきありがとうございました。

那珂川町が「サイクリングの町」になるかどうかは住民の皆様がお決めになるということですから、

こう言うチャンス、こう言う機会があることを知っていただけた会だったと思います。

皆様今日は本当にありがとうございました。



記念トークショー

9. サイクルスポーツトークショー

＜出演＞

栗村　修　　Jスポーツ サイクルロードレース解説者

日隈　優輔　　VC福岡　代表

メインのシンポジウム・パネルディスカッションが終わり、今度は記念トークショーという形で自転車談義を那珂川町の自転車シーンの話しを交えながら、楽しくサイクルロードレースを紹介していただきました。

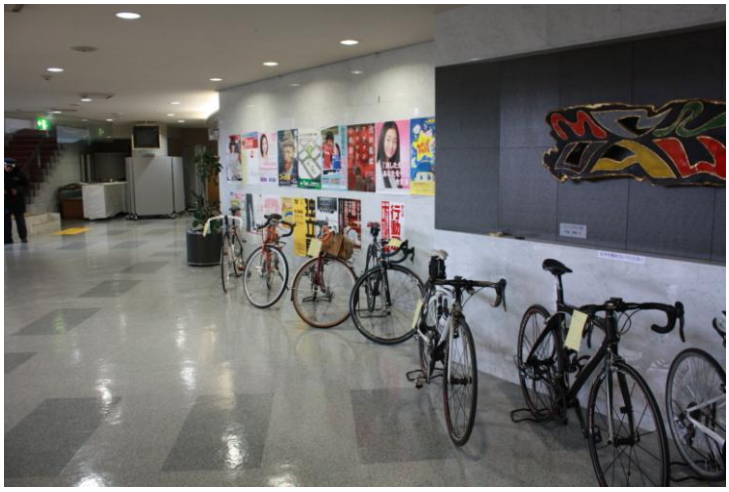
また、「那珂川町にプロロードレースチームが将来誕生するといいですね。」ということでした。

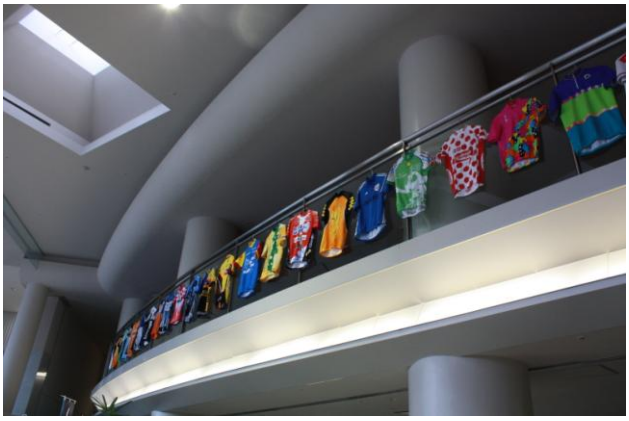
10. 閉会のことば

最後に、大会運営委員会の梶谷利治委員長より那珂川町が「安全・安心な自転車の町」となりますよう、ご理解・ご協力をおねがいし、閉会した。

11. 関連イベント（展示会・抽選会）風景

抽選会風景





全国自転車月間小・中学生絵画・作文コンクール優秀作品の展示

オンヨネ社のサイクル用品展示

市民権宣言　署名活動風景

受付け風景

GIANT

（文責）
〒811－1251
福岡県筑紫郡那珂川町松木4－7－1－313
全国バイコロジー・シンポジウム2010 in 福岡・那珂川町大会
運営委員長　梶谷　利治